

あのね、

福井市四ツ井 2-8-1
TEL 0776-53-6570
FAX 0776-53-6576
<http://www.pref.fukui.lg.jp/doc/kodomo-ryouiku/>



いるか外来



いるか外来では、4歳～5歳のお子さんで保育園や幼稚園ではお友達とうまく遊べない…、ちょっと気がかりのあるお子さんを対象に、小集団活動を通して遊びやお友達への興味を広げ、コミュニケーション能力の発達を促します。

保護者の方には学習会などを通してお子さんの特性理解を深めたり、お子さんに合った視覚的支援やことばがけの方法、環境整備の工夫など関わり方を知って頂けるように取り組みを行っています。

活動内容は「おかいものごっこ」や「はこんでよいしょ」など簡単なやりとりやルールのある遊びを行っています。

写真は「おおきなかぶごっこ」の一場面です。お友達と協力してかぶを引っ張り合い！大いに盛り上がりました。



つくし園には、才能にあふれた子ども達が入所しています。絵を描くのが上手な子や歌うのが得意な子、スタッフの長所を見つけ紹介文を考えてくれる子がいます。

その中で今回は、絵を描くことが得意な子を紹介합니다。

落盛友李くん 高校2年生

友李くんは、似顔絵が得意です。つくし園に新しいスタッフや仲間が増えるとすぐに特徴をつかんで似顔絵を書いてくれます。やわらかいタッチで絵からはモデルになった子の雰囲気がよく出ています。似顔絵だけでなく夏には高校野球のトーナメント表を作成し勝敗を表示したり、イベント時にはiPadを使用して写真を撮ってくれたりもします。

これから、似顔絵がカラフルになっていくのが楽しみです。



つくし園の芸術家を紹介します

☆友李くんインタビュー☆

似顔絵を描くコツはなに？

⇒輪郭をとらえることかな

似顔絵を描くところは友李くんにとって何？

⇒似顔絵を描くことは僕の生きがいのひとつ

今後の目標は？

⇒似顔絵に色を塗ること

友李くんは、似顔絵に色付けする以外に、日本肢体不自由児協会の作品展に写真を出品する目標も持っています！



平成 30 年度 第 1 回療育研修会報告

日時：平成 30 年 5 月 19 日（土）

演題：『発達障害・知的障害のある方の住まいの工夫』～危ない！困った！を安全・安心に～

講師：西村 顕氏（横浜市総合リハビリテーションセンター 地域リハビリテーション部研究開発課一級建築士）

発達障害の特性、環境整備、構造化の重要性など、基本となる内容を丁寧に説明していただき、本人も家族も安全に安心して暮らすための住まいの工夫について、事例を交え具体的な支援方法をお話いただきました。

参加者の方からは、「具体的な事例を見ることができたので良かった」「自宅で手軽にできる工夫から実践したい」等のたくさんの感想をいただきました。

（相談・訓練課 栗原）

「半分の水？」

唐突ですがみなさん、この写真の水の量はどう感じますか？

コップに半分の水が入っています。Aさんは「もう半分しかない。」ととらえました。一方Bさんは「まだ半分もある。」ととらえました。

同じ物事でも、人によって見方や感じ方が違います。どちらが正しくて、どちらが間違っているのかということではありません。どちらの見方もあり、です。

ただ、これまで「もう半分しかない」ととらえていたことを、「まだ半分もある。」ととらえなおすことで、少し希望が持てる気がしませんか。

このように、ある枠組み（フレーム）でとらえている物事の枠組みをはずして、違う枠組みで見ることを「リフレーミング」といいます。お子さんの「まだ出来ていないこと」に注目するのではなく、「すでに出来ていること」に注目することで、同じお子さんの状態も、少し違うものに感じられるかもしれません。保護者の方が「出来ていること」に注目し始めると、不思議や不思議、お子さんの成長もよく見えるようになり、お子さんの発達もより促されることが少なくありません。

心理士は発達検査等の場面で、お子さんや保護者の皆さんとお会いすることが多いです。その際に、「こんなことが出来るんですね。」という感想をいただくと、本当にうれしく思います。お子さんの「出来ること」に保護者の方が注目出来るようなお手伝いをしたいと思っています。

（心理：稲木美紀）

